



2026年10月期 第1四半期決算補足説明資料

株式会社オービス（証券コード：7827）

2026年3月13日



1Q
累計

売上高 (前年同期実績)

2,391百万円

増減 **-361**百万円 ▲ 前年同期比 **-13.1%**

(2,752百万円)

1Q
累計

営業利益 (前年同期実績)

-51百万円

増減 **-170**百万円 ▲ 前年同期比 **—**

(118百万円)

1Q
累計

経常利益 (前年同期実績)

-54百万円

増減 **-170**百万円 ▲ 前年同期比 **—**

(115百万円)

1Q
累計

売上総利益 (前年同期実績)

387百万円

増減 **-139**百万円 ▲ 前年同期比 **-26.5%**

(526百万円)

1Q
累計

営業利益率 (前年同期実績)

-2.2%

増減 **-6.5%** ▲ 前年同期比 **—**

(4.3%)

1Q
累計

親会社株主に帰属する 四半期純利益 (前年同期実績)

-49百万円

増減 **-110**百万円 ▲ 前年同期比 **—**

(61百万円)

ハウス・エコ事業において、大型物件の着工や物件の引渡しが減少、**大幅な減収**。
 木材事業において、**原木消化量の減少**に伴い、単価当たりの製造コストが上昇、**収益性が低下**。
 グループ全体で人件費を中心とする販管費が増加。**減収**、一時的に**営業赤字**へ転落。

決算 ハイライト		売上高	2,391 百万円	-13.1% （前年同期比）
		営業利益	-51 百万円	（前年同期実績 118百万円）
		経常利益	-54 百万円	（前年同期実績 115百万円）
ト ピ ッ ク ス	木材事業	原木消化量は前年同期比 9.6%減 、完全週休2日制への移行により、工場稼働日数が減少。 商材販売量を増やす も、日中関係の緊張に伴い、梱包マーケットは一層低迷。		
	ハウス・エコ事業	工事の進捗に応じて売上を計上する 大型物件の着工が減少 。労務コストの上昇等による利益率の低下や販管費の増加に加えて、減収に伴う売上総利益の減少額が大きく、 営業赤字 となる。		
	太陽光発電売電事業	天候に恵まれ、安定稼働を継続。 売電収入の増加に伴い増益 。		
	ライフクリエイト事業	1月は 積雪や寒波 などにより苦戦を強いられたものの、来場者数は前年同期比で 微増 。		

2026年10月期 第1四半期 連結業績



木材事業は、日中関係の悪化に伴い、**梱包マーケットは更に低迷**。

ハウス・エコ事業は、大型物件の着工が減少したことに加えて、人件費の増加に伴い、**大幅な減収、営業赤字**となったものの、第2四半期以降に官公庁案件を中心とした**大型物件の完工を見込む**。

(単位:百万円)	2025年10月期 第1四半期	2026年10月期 第1四半期	増減額	前期比
売上高	2,752	2,391	-361	-13.1%
木材事業	1,872	① 1,831	-41	-2.2%
ハウス・エコ事業	712	② 384	-328	-46.1%
太陽光発電売電事業	77	③ 84	+6	+7.8%
ライフクリエイト事業	89	91	+1	+2.2%
売上総利益	526	387	-139	-26.5%
販売管理費	407	④ 438	+31	+7.6%
営業利益	118	-51	-170	—
木材事業	110	⑤ 49	-61	-55.5%
ハウス・エコ事業	38	⑥ -66	-105	—
太陽光発電売電事業	41	③ 49	+8	+20.2%
ライフクリエイト事業	5	⑦ 1	-3	-61.8%
全社費用	-77	⑧ -86	-9	—
経常利益	115	-54	-170	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	61	-49	-110	—

- 日中関係の緊張に伴い、輸出関係の荷動きが低迷。完全週休2日制への移行により工場の稼働日数が減少、商材販売量は前年同期比8.2%増加するものの、自社製材品の出荷量は前年同期比8.3%減少。
- 工事の進捗に応じて売上を計上する大型物件の着工が減少するなど、主に重量鉄骨分野が低調に推移し大幅な減収。
- 天候に恵まれ、安定稼働を継続。
- 人員増・ベースアップ等による人件費の増加に加えて、全社でPCの入替を実施。
- 原木高に対して価格転嫁を進めたものの、原木消化量の減少による単位当たりの製造コストが上昇、収益性を押し下げ減益。
- 大型物件の着工減少に伴う減収に加えて、利益率の低下、人件費を中心とする販管費の増加などにより大幅な減益。
- 積雪等により苦戦を強いられたものの、来場者数は微増。人員増及びPCの入替により減益。
- 人員増・ベースアップ等により人件費が増加。

業績分析(売上高の増減要因)

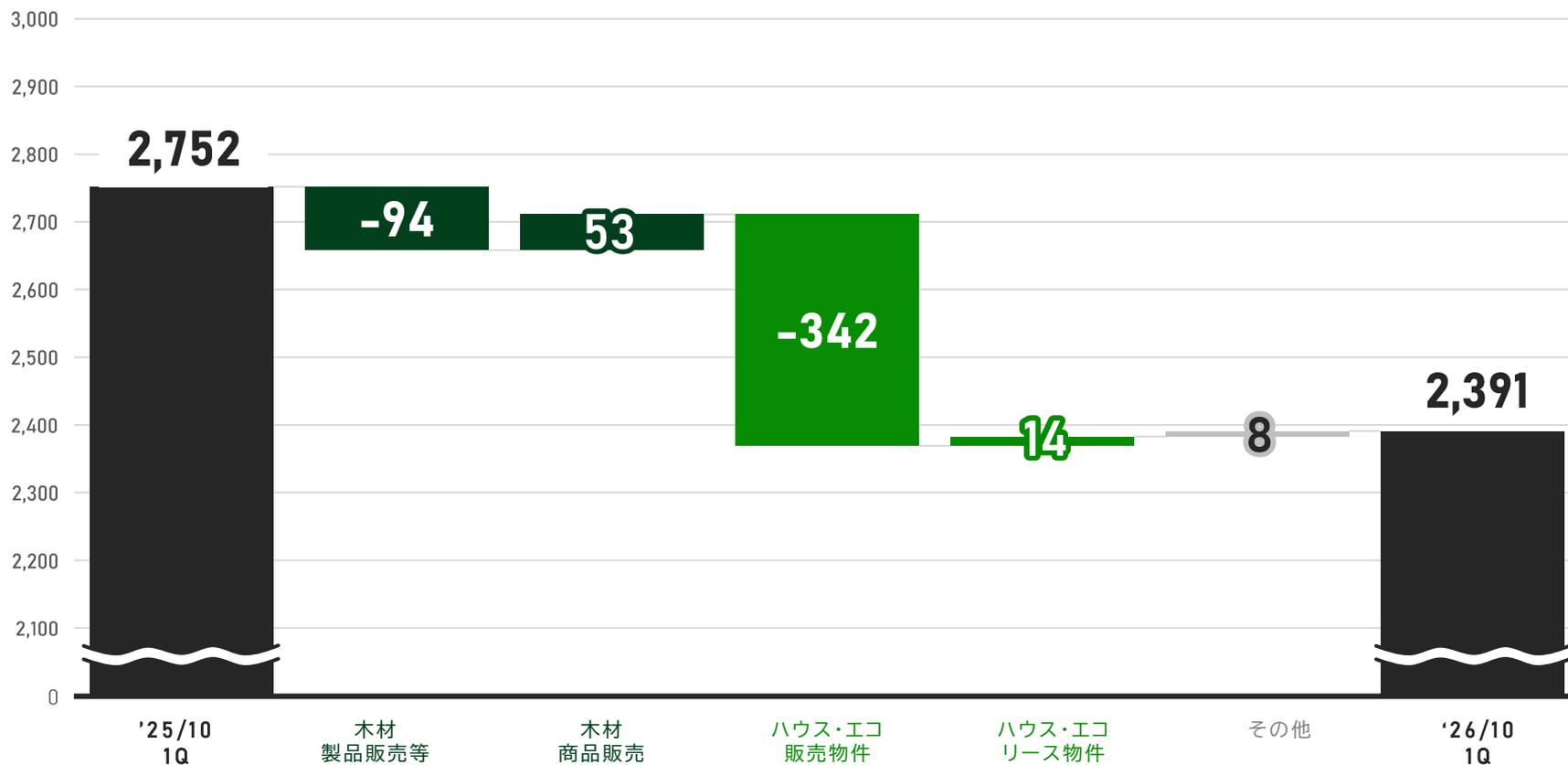
売上高

前年同期比



-361百万円
-13.1%

(百万円) ● 木材事業 ● ハウス・エコ事業



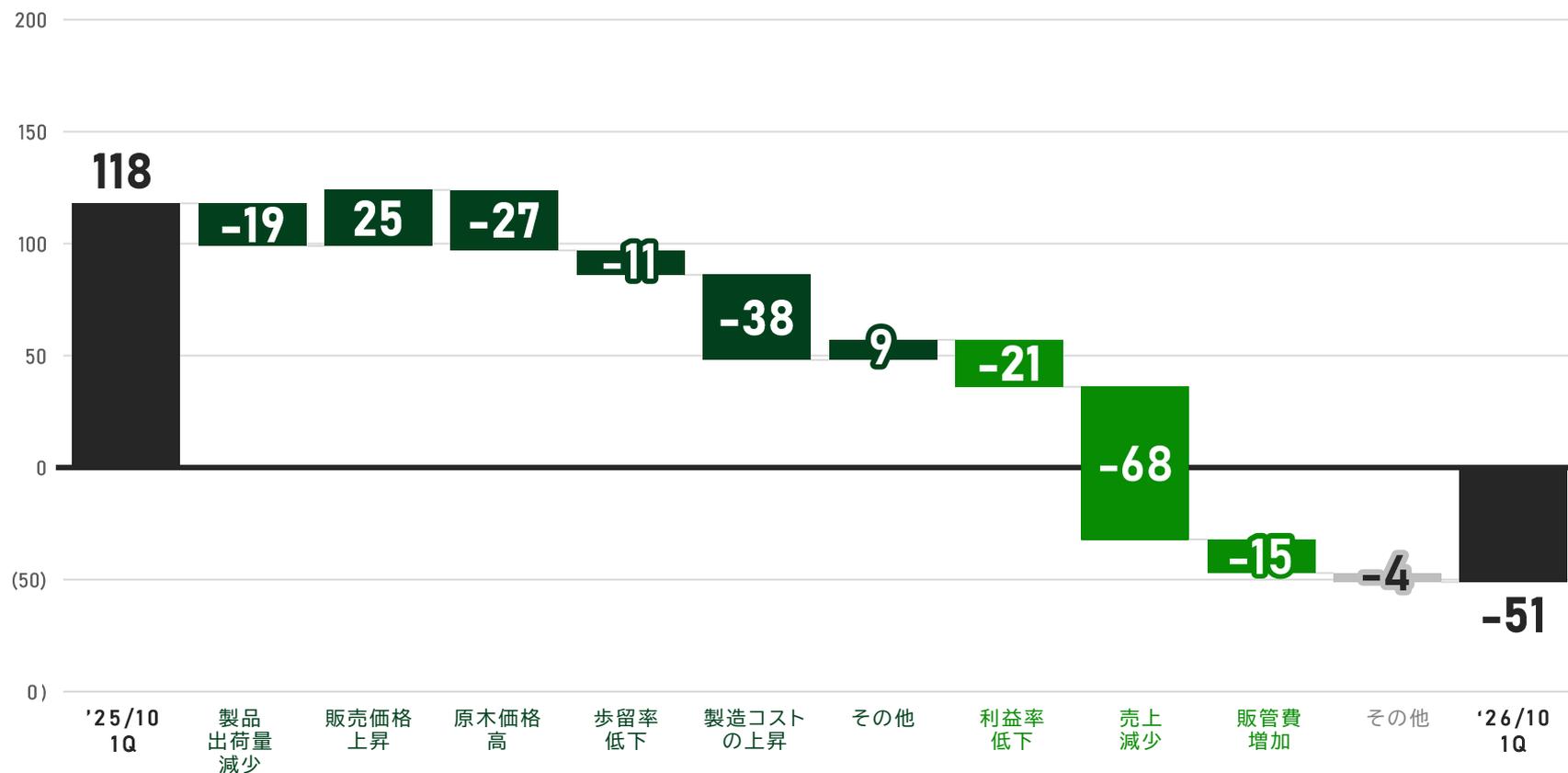
営業利益

前年同期比



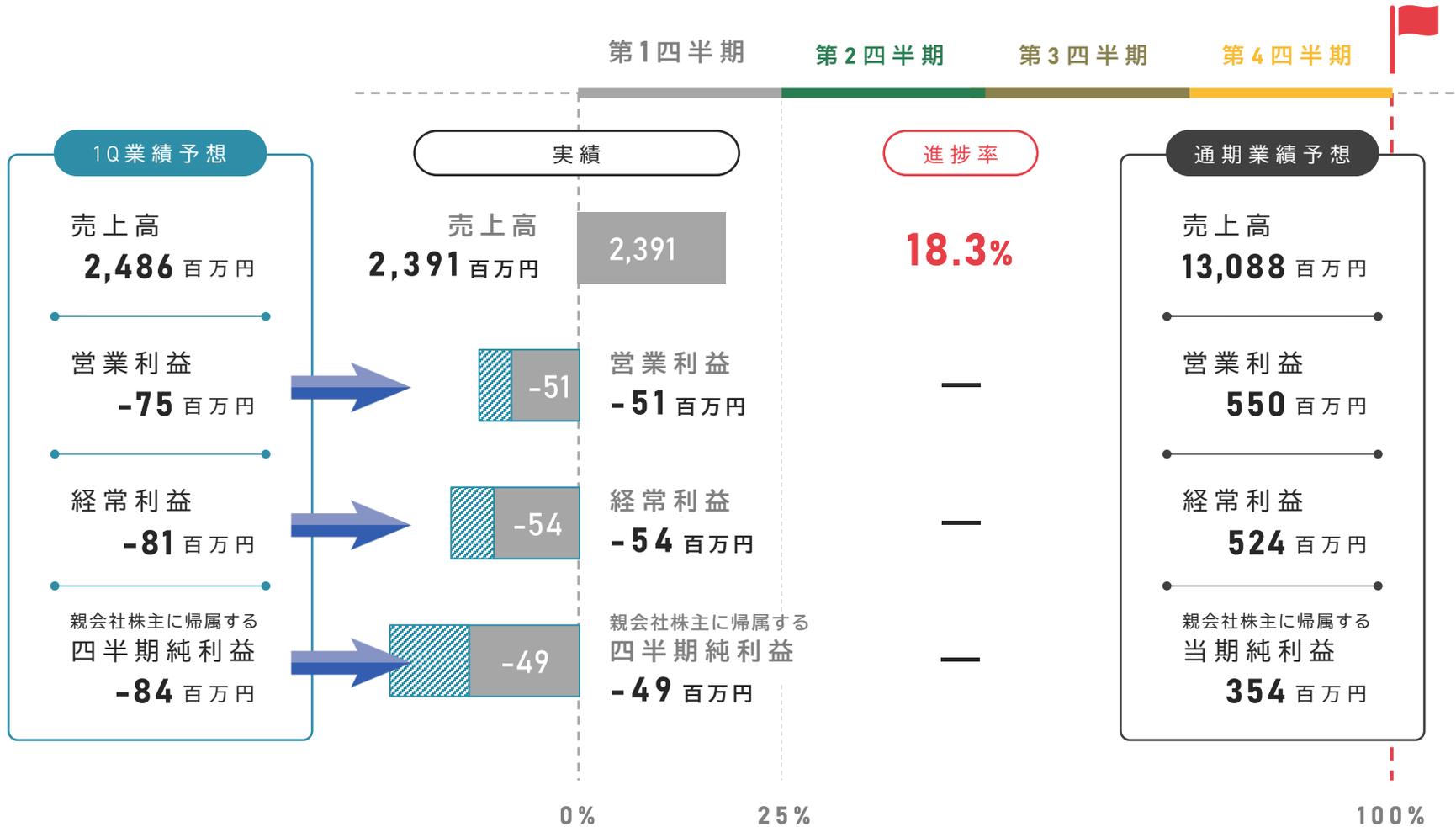
-170 百万円

(百万円) ● 木材事業 ● ハウス・エコ事業



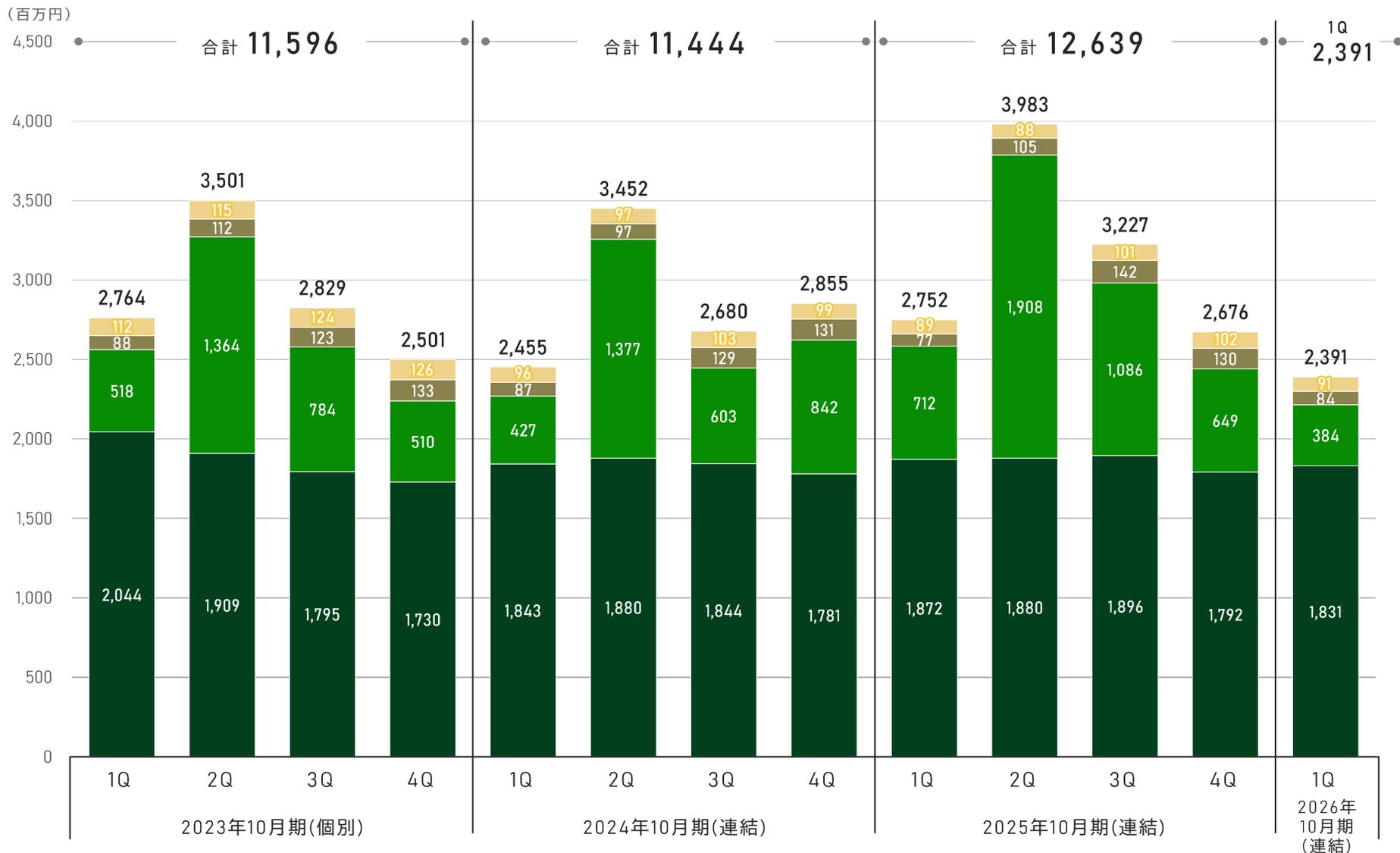
2026年10月期 第1四半期 連結業績進捗率

木材事業において、梱包マーケットが低迷を続ける中、小ロット・多明細対応による小口配送に特化した結果、売上高は概ね業績予想通りで着地。
その他の各利益指標は赤字となったものの、いずれも1Q業績予想を上回る水準で着地。



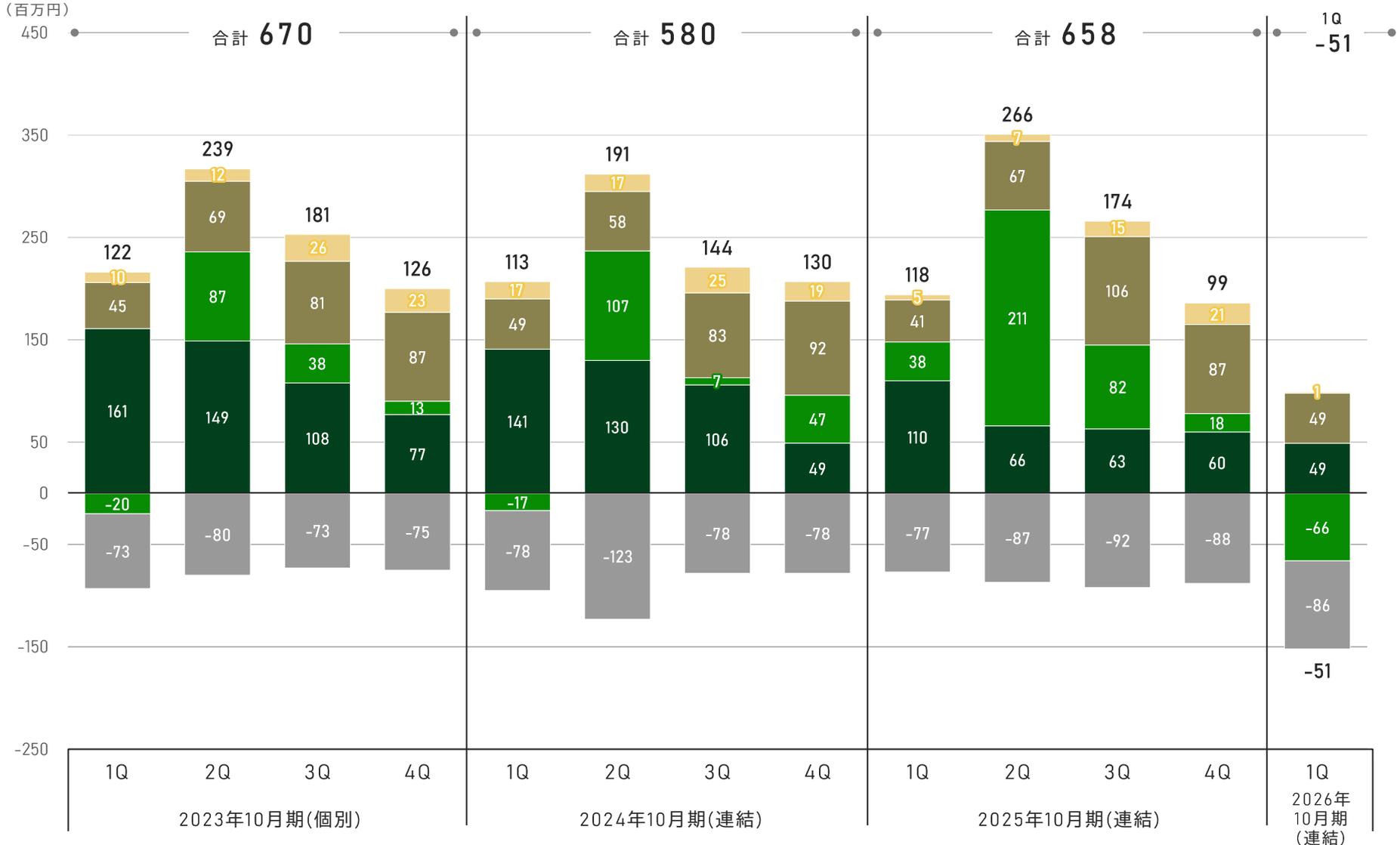
売上高(事業・四半期別)

● 木材事業 ● ハウス・エコ事業 ● 太陽光発電売電事業 ● ライフクリエイト・不動産事業



営業利益(事業・四半期別)

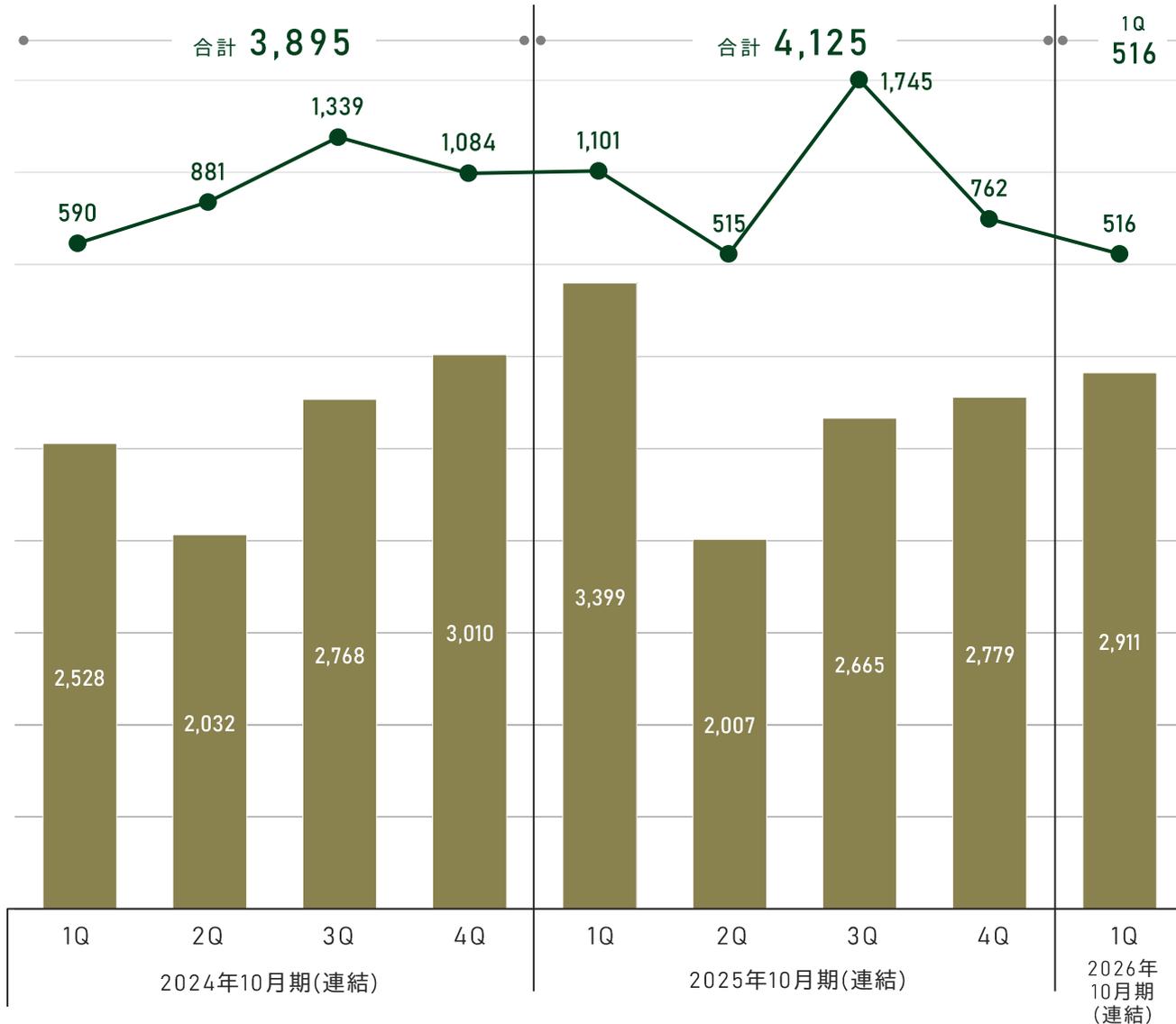
● 木材事業 ● ハウス・エコ事業 ● 太陽光発電売電事業 ● ライフクリエイト・不動産事業 ● 全社費用



ハウス・エコ事業 受注高・受注残高(四半期別)



● 受注高 ● 受注残高 (百万円)



当第1四半期 受注高

引き合いが活発に推移したものの、大型案件の受注には至らず、5億16百万円(前年同期比46.9%)となる。なお、当第1四半期の見積作成件数は**323件(前年同期比131.3%)**、見積金額は**7,944百万円(前年同期比304.1%)**。第2四半期以降、技術担当者による営業支援に加えて、主要製品のPR活動に注力し、積極的な営業活動を計画的に推進することにより、新たな見積獲得と成約率の向上を図る。

当第1四半期末 受注残高

売上高及び受注高が低調に推移した結果、29億11百万円(前年同期比85.6%)となる。確度の高い大型案件も多くあり、第2四半期以降、積極的な営業活動により挽回を図るとともに、重点顧客を中心に既存領域の深耕及び隣接領域(軽量鉄骨と重量鉄骨)への展開に向けた積極的な提案営業を行い、取引の拡大に注力する。2026年10月期末において、受注残高**40億円**以上を目指す。

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。



IR 担当窓口

株式会社オービス 経理部

- ・ TEL 084-934-2621 FAX 084-934-2624
- ・ E-MAIL: ir@orvis.co.jp
- ・ URL: <https://www.orvis.co.jp>